2012 年度卒業研究概要

英国における生物多様性オフセットに関する研究
—2012 年に開始されたパイロットプログラムに着目して—

田中　章研究室

0931029　宇敷　裕子

１．研究の背景と目的

田中（2009）において、生物多様性オフセットまたその発展型である生物多様性バンキングは今や米国だけではなく既に多くの国々に広まっていることが明らかになっている。その中の一つ、英国のイングランド地方において、2012 年 4 月より 2 年間に及ぶ、生物多様性オフセットパイロットプログラムが行われている。イングランドにおいてどのように生物多様性オフセットを最大限に利用するか、このプログラムを通して明確化を行うとこが目的である。このプログラムは日本と同じ島国であり、従来英国の制度を模範してきた日本にとって有益な情報となると考えられる。そこで、イングランドにおける生物多様性オフセットパイロットプログラムを中心に生物多様性オフセット、生物多様性バンキングの最新動向を明らかにすることを本研究の目的とする。

２．研究方法と研究期間

英国における生物多様性オフセット、生物多様性バンキング制度及び、イングランドにおける生物多様性オフセットパイロットプログラムが作成された背景と目的を明らかにするため、このプログラムのメカニズムに関係する英語文献の調査、分析を行う。

研究期間は 2012 年 4 月から 2013 年 1 月までである。

３．研究結果

３－１．イングランドの生物多様性国家戦略における優先行動

イングランドの生物多様性オフセットパイロットプログラムは英国環境・食料・農村地域省（Defra:Department for Environment, Food and Rural Affairs）が 2011 年に策定した、イングランドにおける生息空間と種の喪失を阻止することを目的にした「野生生物及び生態系サービスのための戦略（2011）」に含まれている。また、この戦略は生物多様性条約第 10 回締約国会議で採択された革新的な合意を実行に移し、英国が発行した「自然環境白書（2011）」における計画達成を支援するものである。イングランド生物多様性国家戦略には､「新規かつ自発的な生物多様性オフセット手法の確立と試行」と生物多様性オフセットの記載がされており､「愛知目標（2010）」､「EU 生物多様性戦略（2011）」の対応関係が記載されている。

３－２．イングランドにおける生物多様性オフセットパイロットプログラムについて

Defra は､イングランドにおいて 2012 年 4 月に始まった約 2 年間に渡る生物多様性オフセットパイロットにおいて、地域当局と協力者と共に対象 6 地域で生物多様性オフセット、生物多様性バンキングの試験を行うことを「英国自然環境白書（2011）」で発表した。イングランドにおいて、以前に用いられていた評価手法はオーストラリアのハビタット・ヘクタールである。しかし、イングランドに適した、独自の評価手法を取り入れるため、このプログラムで得られた詳細な情報を今後利用していく。この政策は「イングランド生物多様性戦略（2006）」と「生物多様性オフセットの設計および使用のためのスコーピングスタディ（2009）」において、提案、議論されていた。そして、イングランドの生物多様性国家戦略における優先行動によって試験が開始された。これらの他に「愛知目標（2010）」､「EU 生物多様性戦略（2011）」､「英国生態系評価（2011）」､「イングランドの野生生物及び生態系サービスのための戦略（2011）」､「自然環境白書（2011）」を背景としており、多くの議論がされていることから、生物多様性オフセット、バンキングの必要性が伺える。また､Defra によって選ばれた 6 つの対象地域は、デヴォン、ドンカスター、エセックス、グレーター/リッジ､ノッティンガムシャー及びコンベントリーまたはソリを含んだウォリックシャーである。ユネスコサイト、国立公園の特別自然美観地域と保全特別地域（SAC: Special Areas of Conservation）、自然保護協会特別指定地区（SSSI: Sites of Special Scientific Interest）および郡野生サイト（CWS: County Wildlife Sites）の特殊な環境も対象となる。

表１　開発事業者の行為

ステップ	内容
1	ミティゲーションの優先順位の適応 1.回避　2.低減　3.代償
2	代償に必要な生物多様性のユニット数を計算する
3	どのハビタットを代償するか決定する
4	あらゆる生け垣を成す低木の列の代償 のための要件を計算する
5	オンサイトでの代償の価値を評価
6	どのように代償するか決定する

表２　オフセット・プロバイダーの行為

ステップ	内容
1	オフセットサイトの基準値の計算
2	サイト上で利用可能な生物多様性ユニット数の計算
3	オフセットプロジェクトが提供することができる低木の列におけるメートル数を計算
4	生物多様性オフセット管理計画の完了

調査より、開発事業者は表１のステップを、プロバイダーにおいては表２のステップを踏みアプローチを行うことが明らかとなった。そして、各々の行為を行う上でのイングランドにおけるオフセットメカニズムは図１の通りであることが明らかになった。

３－３．ドンカスター（Doncaster）を例として

ドンカスターにおけるパイロットプロジェクト対象地であるダーン・バレーはかつて、サウス・ヨークシャー炭田の中心地として栄えた。しかし、この炭鉱業は土壌や河川の汚染を残して閉鎖している。そこで、野生生物ハビタットを回復するために、600,000 ポンド、日本円にしておよそ 8,000 万円を充当していることが明らかとなった。1,300 ヘクタールのウェットランドと森林においてハビタットを創出することが目標である。ダーン・バレーはイングランドにおける自然改善領域（NIAs: Nature Improvement Areas）の１つに政府によって選定されている。この NIAs は野生動物保護や泥炭地の乾燥回避など、様々な視点から、健全な状態の回復を目指しており、今後拡大がある。この対象地は 2007 年から 5 年間、パートナーシップによって、河川と周期的に浸水する土地の向上を図り、谷を越え新たなルートを作成が続けられている。オフセット・プロバイダーはドンカスターメトロポリタン自治区評議会、英国王立鳥類保護協会（RSPB: Royal Society for the Protection of Birds）、ナチュラルイングランド及び環境庁オフセット・デベロッパーはドンカスター評議会である。対象種は、ウナギ、カワウソ、ミズハタネズミである。

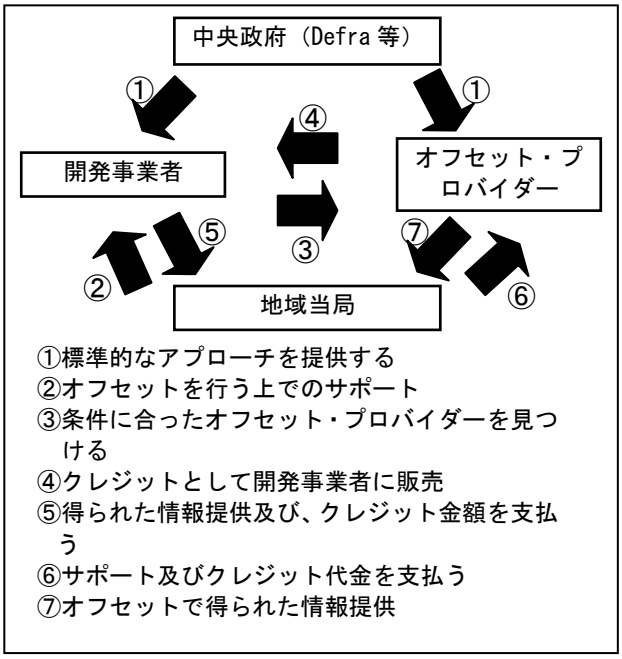

図１　パイロットメカニズム

４．結論と考察

イングランドにおける生物多様性パイロットプログラムは愛知目標、EU 生物多様性戦略、英国生態系評価、イングランドの野生生物及び生態系サービスのための戦略、自然環境白書を受け実行、促進がされていることが明らかとなった。また、政府、地域当局、専門家等との連帯を図りながら、その地域にあった生物多様性オフセットを行おうとしている事が伺え、イングランド独自の評価手法を開拓し、今後生物多様性オフセットの促進をはかっていくことが明らかとなった。例として挙げた、ドンカスターにおいては以前から NIAs として選定されていた土地をプロジェクト対象地と設定し、さらなる生物多様性オフセットの拡大を図っていくことが明らかとなった。Defra は生物多様性オフセットパイロットプロジェクトを通して、これからも自然改善保護と改善を行っていくであろう。この NIAs 利用し、官民の連携により生物多様性バンキングによって、今後イングランドにおいてこのような活動が普及していくのではないだろうか。

【主要引用文献】

田中章（2010）ミティゲーション・バンキングによるウェットランド等の生態系保全―米国の生物多様性オフセットの経済的手法：生物多様性バンキングの実態―．水環境学会誌，Vol.33(A)，No.2，54-57.

田中章，大田黒信介（2010）戦略的な緑地創成を可能にする生物多様性オフセット～諸外国における制度化の現状と日本における展望～都市計画，Vol59，No5，p18-25.

Defra(2011)Natural Environment White Paper p15,22.

Defra(2012).Biodiversity Offsetting Pilots Technical Paper: the metric for the biodiversity offsetting pilot in England

The Environment Bank.(2012).Biodiversity Offsetting: Why is this a better system?national broker in Conservation Credits, delivering benefits to the environment and the economy.